

発音学習における学習成功者と学習遅滞者の学習方法の違い

早稲田大学

早稲田大学

明海大学

中川千恵子

クリス・シェパード

木下直子

1. はじめに

言語教育においては、しばしば学習成功者と学習遅滞者の違いが問題になる。本研究では、発音学習において両者が使用する学習方法には違いがあるか、違いがあるとしたらどのような違いであるかということを実証する目的で調査を行った。

2. 調査方法・被調査者

中国語母語話者（10名）および韓国語母語話者（2名）の計12名の上級レベルの日本語学習者が調査対象者である。全員、大学の発音授業で同じテキストを使用して指導を受けている（中川他2007）。100字程度の文をアクセントやイントネーションに注意して読み上げる発音タスクを行い、それをビデオ録画した。タスク終了後、ビデオを見ながら、学習者が何を考えてどんな行動をしたかを知るために、「再生刺激法」インタビューを行った(Gass & Mackey, 2000)。その文字化資料および音声資料が分析資料である。

3. 結果

音声資料をもとに、タスクの結果（タスク達成までに出現したエラー数+タスク達成までの時間）およびインタビュー時（5分）の発音エラー数等から学習成功者と学習遅滞者に分けた。その結果、学習成功者は4名、学習成功者に近い学習者が2名、学習遅滞者が6名に分類された。

文字化したインタビュー内容を検討した結果、学習成功者と学習遅滞者には、以下のように異なる点があることが判明した。学習成功者は、聴解力が高く、経験知に頼る傾向があるが、学習遅滞者は聴解力が低いことなどにより、経験知に頼ることができないため、アクセントやイントネーションをイメージ化するために視覚的道具や手の動きなど多様なストラテジーに頼る傾向がある。

4. 考察

理想としては、学習遅滞者の学習が進んで、視覚的道具などを外すことが可能となり、学習成功者となることだが、それが可能なのか、あるいは使用し続けているのかを今後明確にする必要がある。

これは音調に問題のある学習者に、見て理解できる略図を描いて示す方法を提案しているリヴァーズ(1987)の指摘を裏付けるものとなった。

参考文献

Gass, S. and Mackey, A. (2000). *Stimulated Recall Methodology in Second Language Research*. Mahwah, NJ: Lawrence Erlbaum.

中川千恵子・中村則子・許 舜貞(2007)『スピーチ・口頭発表のための日本語発音練習—フレージング練習を中心とした上級学習者用発音テキスト（試用版）』早稲田大学日本語教育研究センター

リヴァーズ、W.(1987)『外国語習得のスキル』研究者出版

用語リスト

再生刺激法 (Stimulated Recall): タスクや活動を行い、その内容をビデオで収録後、調査対象者に見せ、タスク遂行時に考えていたことを聞くことで調査対象者の内省を調査する方法。

ク遂行時に考えていたことを聞くことで調査対象者の内省を調査する方法。

フレージング (Phrasing) : 間に句切り (区切り・区切れ) を入れずにひとまとまりで発音した音調単位を本研究ではフレーズ (句) と呼ぶ。フレーズを作りながらイントネーションを形成することをフレージングと呼ぶ。